

ホツとしてギョツとした(結婚するM君へ)

結婚するんだって!??

ホツとしたよ でもギョツとしたよ

二十年位前に

青い教師が命がけでもつと真つ青なピーマンと討論していた

売れ残ったピーマンがこれから実をつける若いピーマンに

懸命に水をやり、語りかけ、歪んだ世界を共有しようとした

新鮮なピーマンたちは僕に応え僕を増長させた

瑞々しく若い人たちは応えが早かった

僕は自分自身の満足感を利己的に貪っていたのだろうか

「戦後」にまみれた僕は追い落とされるセメントの固まりのように

若い人たちを道連れにしたではないか

僕の存在故に生き難くなった幾多の若い方々に詫びなければならぬ

そして今でも僕は時代と違う方向に目を向けている

民主主義つて、皆の向く方を見ることだっけ

だったら、戦争中でも「東条」だけでなく

隣りのおばさんだって同じだった

君は戦後を忠実に研究し、M先生の研究以外は盲目になった

要領の悪い君は

適当に現実に妥協して

「丸山」を「角山」に変えることは出来なかった

日本は戦後からどんどん遠ざかって行き

自らの姿が見えなくなっている

今僕は指し示す人差し指を失ってしまった

人差し指は今なお自分の内面に向かって

深い影を落としているだけだ

真っ青だったヒーマンが立派な実をつける頃

もう人差し指はどこも差せずにいるんだ

君の人生の遅れ馳せながらの普通の幸せを

その普通の幸せも危うい僕が

祈るように今ここに居る

(2006.7.21)